

中学生の「税についての作文」優秀作品
『十日町納税貯蓄組合連合会 優秀賞』

税金は悪者じゃない

十日町市立 松代中学校 3年
若 井 謙 成

僕の親は教師をやっています。公務員なのでお給料は税金から出ています。なので僕は税金なんてなくなってほしいと思ったことはありません。僕は税金は絶対に必要だと思います。なので増税政策に文句を言うのはおかしいと思います。

僕たちの周りには税金が使われているものであふれていると租税教室で習いました。僕の住んでいる十日町市では生まれてから十八歳までは五百三十円で医療機関を受診することができます。これも全て税金が使われているということを知りました。もし、税金がなくなったらこの医療費助成もなくなってしまい、一回受診するごとにたくさんのお金がかかってしまい、体調が悪くなくても気軽に受診できず、さらなる体調悪化につながってしまいます。

他の税金が使われている代表例として、僕の親のような公務員のお給料というのがあります。公務員の仕事は教員の他に、消防士や警察などがあります。今は僕たちがお金を払わなくても警察や消防を利用することができますが、税金がなくなったら医療費と同じように一回呼ぶのにばく大なお金がかかってしまい、緊急時に呼ぶのをためらってしまうことにつながります。

このように税金が使われているものには僕たちの命に関わっているものがたくさんあります。僕たちが払っている税金は僕らの命を守ってくれているのです。

そして、最近は国の増税政策に文句を言っている人たちが増えてきて首相のことを「増税メガネ」と呼ぶ動きまであります。でもこれはおかしいと思います。なにも理由もなく増税をするわけがないからです。日本の借金とは年々増え続けています。高齢化が進み、社会保障にかかるお金が増え、国の収入ではまかないきれなくなってきているからです。

そんな状況でも増税反対などと言いますか。今はいいかもしれないけど、このままいけば国の借金は増え続け、将来の日本が大変なことになってしまいます。

たしかに税金を払うのは大変です。ですがその税金によって助けられている人たちは今の日本にはたくさんいます。そして、将来自分の身に大変なことがあったとき、税金が助けてくれるかもしれません。税金に対して悪いイメージをもつのではなく、人を助けているという良いイメージをもって過ごしてみてもいいのではないでしょうか。